

令和 7 年度

事業計画実績報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 横手 福寿会

〒019-0703 秋田県横手市増田町吉野字梨木塚100-1

< 目 次 >

1. 理事会・評議員会 開催状況	1
2. 介護老人保健施設 りんごの里 福寿園	
・ 各部門総括	2～8
・ 各種委員会総括	9～11
・ 研修・出張の実施状況	12
・ 職員学習会の実施状況	13
・ 年間行事計画の実施状況	14
・ 慰問・ボランティア・実習等の状況	15
・ 防災計画の状況	16
3. グループホーム ひだまりの家	
・ 総括	17
・ 各種委員会総括	18～19
・ 年間行事計画の実施状況	20
・ 慰問・ボランティア・実習等の状況	21
・ 防災計画の状況	22
4. グループホーム ひなたの家	
・ 総括	23
・ 各種委員会総括	24～25
・ 年間行事計画の実施状況	26～27
・ 慰問・ボランティア・実習等の状況	28
・ 防災計画の状況	29
5. ショートステイ ラ・ボア・ラクテ	
・ 総括	30～31
・ 各種委員会総括	32～36
・ 研修・出張の実施状況	37
・ 職員学習会の実施状況	38
・ 年間行事計画の実施状況	39～40
・ 慰問・ボランティア・実習等の状況	41
・ 防災計画の状況	42
6. りんごの里福寿園居宅介護支援センター	43
7. りんごの里くらしのサポートセンター総括	44
8. 事業別利用者状況表	45
9. 事業実績報告の付属明細書	46

令和7年度 理事会・評議員会開催状況

(令和7年4月1日～令和8年3月31日迄)

令和 7年	
5. 20	監事監査
5. 28	理事会
6. 18	理事会・評議員会
8. 6	理事会
12. 10	理事会
令和 8年	
3. 11	理事会
3. 25	評議員会

介護老人保健施設 りんごの里 福寿園

＜ 各部門 総括 ＞

「看護部門」

1. 体調の変化や異常時の対応については迅速に医師に報告し、早期の対応に努めることができた。緊急時の具体的な対応については、定期的に対応フローやマニュアルを確認しスタッフ間で動きの統一を図ることで、より迅速に対応できるようにしていきたい。また、利用者様の状況として重度の疾患を持ちながらの入所者が多いことや長期に入所されている方を中心に看取りまでの対応をさせて頂くことが多くなっている。
(前年度看取り件数 18 名) 介護職員や関連職種との情報共有やご家族への連絡など、迅速かつきめ細やかな対応を実施できるように今後も努めていく。
2. 医療用品や薬剤については定期処方調剤薬局の協力も頂くことで、以前に比べ不要な薬品在庫や業務の負担の軽減がなされている。今後も従来の薬品や備品管理の方法を見直し、改善を図りたい。
3. コロナやインフルエンザについては繰り返しの集団感染もあったが、実務から振り返り習得したことも多かった。転倒や誤薬などのトラブルに関しても同様であり、事故発生後の対応についてフローを見直し今後の対応を再確認している。今後もさらに職員間の意識が統一できるよう体制を構築し、安全管理に努めていきたい。

「介護部門」

1. 利用者の適切な対応(接遇面)の向上
 - ① 利用者も尊厳を守り心地良い対応を徹底する。
 - ② 接遇向上の為に研修・学習の実施。

＜反省＞

今年度の介護課の取り組みを振り返る中で、言葉遣いや態度については一定の意識づけは図られたものの、職員間でのばらつきが見られ、利用者にも常に安心感を与えられる接遇が徹底されていたとは言い難い状況であった。忙しさや業務優先の意識から、表情や声かけが事務的・高圧的になる場面も見受けられ、接遇の質の均一化が今後の課題である。

表面的な対応にとどまらず、一人ひとりの思いに寄り添う姿勢の強化が必要である。接遇に関する研修や振り返りの機会を定期的に設け、職員の意識と行動の統一を図るとともに、利用者の声に真摯に耳を傾ける姿勢を組織全体で共有し、安心と信頼につながるケアの実現を目指していく必要がある。接遇に関する外部研修の参加を進めていきたいと考えている。

2. 職員の負担軽減と働きやすい環境作り
 - ① 業務の効率化・分担の見直し

＜反省＞

今年度は、ICT の活用による記録業務や情報共有の効率化を目標として掲げていたが、具体的な導入や運用の検討が十分に進まず、現場の負担軽減に大きくつなげることができなかった。新たな仕組みの検討や試行に対する取り組みが不十分であった点が課題として挙げられる。

② 職員のメンタルケアと定着率向上

<反省>

定期的な面談については概ね実施することができ、職員の負担状況の把握や業務の洗い出しにつなげることができた。面談内容の活用や具体的な業務改善への反映については十分とは言えず、継続的な負担軽減には課題が残る。今後は面談で得た情報をより実効性のある改善につなげるとともに、休暇取得のさらなる促進を図り、働きやすい環境づくりを強化していく必要がある。

3. 感染対策の強化と安全管理の徹底

①感染予防の徹底

②施設内での感染拡大防止策の強化

<反省>

感染対策については、BCPに基づく感染症発生時の訓練を定期的実施することができ、対応力の維持・向上につなげることができた。今後も定期的に開催する。

施設内への感染症の持ち込み防止に関しては、職員の体調管理の周知や予防対策の確認が十分とは言えない面も見られた。今後は、職員への体調管理の周知を継続するとともに、予防対策の実施状況を定期的に確認し、利用者の体調変化にも一層注意を払いながら、安心して過ごせる環境づくりに努めていく。

「リハビリ部門」

【入所・短期入所療養介護サービス】

① 個別リハビリテーションの実施

・入所者に対し、週3回以上の個別リハビリテーション(以下、リハ)を実施した。希望者には短期集中リハ加算(Ⅰ)を算定し、週4～5回の個別リハを提供した。

今年度の算定者20名(昨年度26名)、リハ件数946件(昨年度907件)。算定者数の減少に対しリハ実施件数が増加した要因として、感染症蔓延防止によるリハ中止期間が短縮されたことが考えられる。

・リハ強化施設として、短期集中リハ加算(Ⅱ)や認知症短期集中リハ加算の算定が叶うには、介護計画課との連携や医師の研修要件のクリアが必要となる。

・短期入所の個別リハ提供は969件(昨年度729件)であった。リハ希望者の増加と感染症発生後の体制が整備され、リハ提供の再開が早まったことが提供件数の増加につながっている。

・在宅復帰予定者に対してリハカンファレンスを実施し、復帰条件や課題の共有を図った。

② 生活リハビリテーションを立案

看護・介護課と連携し、日常生活動作の自立度のアップや重度化予防に努めた。特に移動において、退所先で必要となる能力を維持するための支援に重点を置いて実施した。

③ 集団リハビリテーションの企画・運営

感染予防策や担当スタッフが1名であることで活動内容が限られているが、利用者様に興味を持って参加していただけるよう工夫に努めている。

クラブ活動スケジュールは以下の通り

	月	火	水	木	金
14:00 ～15:00	2階 いきいき体操				3階 いきいき体操
15:45 ～16:45	3階 工芸クラブ	2階 音楽クラブ		3階 音楽クラブ	2階 工芸クラブ

④ 食事支援

歯科衛生士・管理栄養士と連携し、利用者ごとに嚥下状態・食形態や摂取状況の評価を行い、経口摂取支援を行った。(経口維持加算の算定)

⑤ 環境調整

- ・利用者の心身状態や退所先に合わせた環境整備や補助具の選定を行った。
- ・居室で食事を召し上がる場合の姿勢保持について助言、ポジショニングの周知を行った。

⑥ その他

感染症発生時、介護課の業務補助として清掃業務や非感染者の生活介助を行った。

【通所リハビリテーション】

① リハビリテーションマネジメントの実施

- ・要支援者に対しリハ会議を実施している。具体的な生活目標が立てられ、利用者がリハプログラムに主体的に取り組む様子が見られている。
- ・要介護者に対するリハ会議は行えていないため、リハマネ加算は算定できていない。会議実施には時間、人員の確保に課題がある。
- ・歩行自立の方に対し、廊下歩行の自己トレーニングを取り入れた。実施者の中にはバランス反応の向上が見られた方もいる。

- ① 短期集中個別リハ加算算定者は6名(昨年度2名)。今後も通所相談員、ケアマネージャーに働きかけていく。

【ラ・ボア・ラクテでのリハビリ業務】

① 必要な方への個別リハビリテーションの実施

- ・新規利用で日常の対応にアドバイスが必要な方、状態確認が必要な方、在宅復帰見込みの方、他施設への入所予定の方への個別訓練。運動機能の低下が心配される方への個別訓練を中心に行なっている。

② 自己管理可能な方への自己トレーニングメニューの提供と実施状況の確認

- ・病院でリハビリテーションを受け訓練継続を希望されている方やご家族からの要望訓練提供を希望され自己管理できる方にはトレーニングメニューを提供しているが、網羅出来ている訳ではない。トレーニングメニューを提供してもごく短い期間の入所のため退所時までには実施状況を確認出来ないこともある。

③ 集団活動の定期的な提供

- ・感染症まん延防止に伴う出勤停止等により、定期的な集団活動の提供が提供できていない。介護職員による昼食前の食堂での体操に移行している。

【職場環境の整備】

- ① 互いの業務量を共有でき、カバーしやすい環境を作れるよう、通所と入所を兼務できる人員を1名配置した。

- ② 精神的な落ち込みにより1カ月以上の休養が必要となった職員1名。業務の立て込みから不調を抱えて業務を行い、症状が悪化した職員も複数いた。不調のサインを見逃さないように今後も気を配り、休養や受診が遠慮なくできる職場環境作りに努める必要がある。

- ③ 機器や手指の消毒、通所と入所で利用時間を分ける等の通常時の感染予防は継続している。職員がウイルスを媒介しないよう、予防策の実施と健康管理に努めている。

- ④ 作業療法学専攻の総合臨床実習 1 名（6 週）、見学実習 1 名（1 週）を受け入れた。臨床実習指導者講習を理学療法士 1 名・作業療法士 1 名が受講し、指導者資格を取得。

「介護計画部門」

1. 在宅復帰支援

在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価（10 項目の指標）では施設内でコロナウイルスやインフルエンザ感染症の発生があったが、最低限の受け入れを継続し、ベッド回転率や在宅復帰率の低下を最小限にすることで在宅強化型を継続できている。介護老人保健施設の機能が地域に認知され、医療機関や居宅介護支援事業所からの紹介が多くなっている。令和 7 年度の在宅復帰者は 30 名で年度初めの目標予測より若干下回っており、昨年より 3 名少ない状況だった。しかし、施設内での感染症蔓延の減少や冬期間に体調不良で入院退所する方が減少し、退所者数に対して在宅に戻られる割合が増加した事と年間を通して毎月在宅に戻られる利用者確保できた事で安定的に在宅復帰率が確保出来ている。昨年同様、在宅復帰希望で期間入所したが、思うような ADL 改善が見られず長期施設へ移る方々や当施設の長期枠に移行する方々が多くなっている状況から、在宅復帰者の予測を若干下回ったと思われる。退所後の生活ビジョンの提案やフォローを手厚くして、居宅支援担当者やご家族の理解を得ながら進める事で安定的に在宅復帰者を確保していきたい。今後も在宅生活及び地域生活への移行を目指す利用者様を積極的に受け入れ、入退所前訪問、ご家族及び居宅介護支援事業所者との密な情報共有、効果的なリハビリテーション提供を軸に 30～40% 台の在宅復帰率、10% 以上のベッド回転率を確保していく。

2. 安定した利用稼働率の維持

〔入 所〕

年間平算 89.23 名となっている。コロナウイルス、インフルエンザなど施設内での感染症減少もあり、入退所を止める事なく稼働できたことで昨年より平算が上昇している。また、突発的な退所に対しても早めに面談を組んで段取りしていた事で空床を速やかに埋められた事で大幅な平算の低下を防ぐことが出来たと思う。今後も老健機能にマッチした利用者獲得はこれまで通りに実施し、医療頻度や介護度の高い方の入所も積極的に受け入れ稼働面の安定も図れればと思っている。申し込みや相談件数は例年増加傾向にあり、安定して過ごせる方を中心に、申込み受付時から面談まで速やかに行い、待機者の確保や空床時の調整ができるように希望者の直近の状況確認と早期の事前面接を実施していく。

〔短期入所〕

令和 7 年度の平均利用は 8.2 名となっている（昨年度比較+0.1 名）同居家族のコロナウイルスやインフルエンザにより、SS 利用者の受け入れを中止せざる得ない状況は昨年同様続いていたが、入所希望者の申し込み増加によりベッド数を時期により変動的に稼働させた事で稼働率の大幅な低下を防いでいる。令和 8 年度は冬季入所終了後、SS 希望の方もいる為、昨年同様、時期で 1～2 床短期入所枠を増やす事はあるが年平均 8 名前後で稼働できればと思っている。在宅強化型を算定しながら全体の稼働率を維持していく為には、短期入所の稼働率と空床ベッドの利用が重要になってくる。入所ベッドの空床時に早期調整ができるように関係各所に情報提供する事、緊急の利用時はご家族送迎の協力依頼を行い、柔軟かつ誠実に対応できるように努めていく。

3. 他職種、各課との連携

事前面接時、必要な情報を詳細に各課と確認をし、定期カンファレンスや入退所前訪問で随時情報共有や検討事項を解決できている。

4. 職員のスキルアップを図る

Zoom を用いた研修への参加、地域ケア会議への出席を通じて学習機会と他事業所との意見交換する機会を

持つ事ができた。

5. ケアマネジメント業務

利用者様、ご家族との面接を丁寧に実施し的確に課題を捉えて介護支援計画に反映させた。高齢者特有の急激な状態変化があった場合も、随時カンファレンス開催や他職種間の連携を今後も継続していく。

6. 相談及び援助

施設入所や当施設で提供するサービス利用に留まらず、利用者様やご家族のニーズに合わせた総合相談（成年後見制度利用、障害サービス利用、他施設への紹介など）に対応できている。

「通所リハビリテーション部門」

1. 利用者様の自立を目指し、生きがいのある生き活きとした生活を送る為に支援する。

①生活の中で、能力を活かして過ごして頂けるようリハビリ課との連携を密にして支援していく。

②自施設の特色を出し、個々の目標や希望に合わせて対応する。

② 余暇活動等を充実させる。

③ 利用者自らが自発的に活動を行えるように職員が仲介する。

⑤自己選択・自己決定を尊重したケアの実施。

2. 利用者様並びにご家族の満足と達成感を得られる、質の高いサービスを提供する。

①知識・技術・接遇等の外部研修会への積極的な参加、課内学習会の定期開催などにより、職員教育の強化を図る。

②サービス業に従事しているという認識を徹底し、プロとしての役割を理解する。

③職員の質、介護サービスの質、施設の質を向上する様、自己研鑽に努める。

④利用者様のプライバシーを守る。

⑤利用者様の人権を尊重し、かつ親近感の持てる礼儀正しさをもって接する。

⑥利用者様の希望や考えを代弁しご家族や関係事業所等へ適切に発信する。

3. 安全・安心に利用していただける環境作りに努める。

①安全を第一とした丁寧な送迎を心掛け事故防止に努める。

②施設内での安全管理を徹底し、転倒事故等の防止に努める。

③利用者様、ご家族様への報告・連絡の徹底。

④基本的な感染対策を徹底し、感染症の持ち込み予防・防止する。

⑤職員間の連携、協力を密にして利用者様と共に楽しく過ごしやすい雰囲気作りを実現する。

4. 職員が働きやすい環境を整備する事による離職防止と有能な人材育成に取り組む。

①業務の見直しによって職員の事務作業負担を軽減する。

②新人職員へのオリエンテーションに対する適切なフィードバックの実施。

③知識・技術 接遇等の外部研修会への積極的な参加、課内学習会の定期開催などにより職員教育の強化を図る。

④定期的な個人面談実施。

⑤業務や接遇などの評価を定期的に行い、職員同士注意し合える環境作りに努める。

「口腔衛生部門」

1. 入所

口腔衛生管理加算は全入所者様へ対応することが出来た。また、技術的助言及び指導と学習会を通して、職員への指導を実施出来た。経口維持加算は管理栄養士・言語聴覚士と連携し、月50人前後の対象入所者様に実施することが出来た。定期的に食事や水補介助に入る機会を作ることが出来なくなり、日常の摂取場面の把握が難しくなった。

2. 通所

口腔機能向上サービス利用者は、10～12名で推移している。これまで利用の都度のサービス提供を実施していたが週1回程度のサービス提供となった。基本的には月2回の実施は行うことが出来た。新規利用者様の口腔アセスメントを実施し、口腔内の状態把握と職員やケアマネージャー、ご家族様への情報提供を行うことが出来た。引き続き、口腔機能向上サービスが必要と考えられる利用者様へのアプローチを行い、サービス提供に繋がる様努めたい。職員への助言・指導を随時行うことが出来た。

3. グループホーム

口腔衛生管理体制加算において月1回の訪問が出来ており、入居者様の口腔衛生向上に努めている。また、職員へも随時指導を行った。緊急時は随時訪問し職員への助言を行っている。

4. ラ・ボア・ラクテ

7月から月1回の訪問となった。感染対策により訪問出来ない月を除き、訪問を継続出来ており、利用者様の口腔衛生向上に努めている。訪問時は随時職員への助言を行い、口腔ケアの意識向上や技術向上に繋げている。

5. 関係医療機関との連携を図る

歯科治療の希望者には、協力歯科医院の赤沢先生の往診治療を受け入れ対応出来た。ご家族様との連絡や歯科医院への依頼を行い、往診時の準備・対応を行った。また、利用者様や御家族様の希望で、すえひろ歯科医院への対応も行った。

6. その他

研修会等は情報不足で参加に繋がるものがなかった。

積極的に情報収集しスキルアップに繋がる研修会に参加したいと考えている。

一人体勢となり、通所サービスの回数、入所利用者様への介入、ラ・ボア・ラクテへの訪問回数の減少等、今まで通りの対応が難しくなった。その中でも経口維持加算に対する取り組みは他部署との連携を図りながら計画的に実施出来た。

来年度は、積極的に研修会に参加しスキルアップを図り、可能な範囲でのサービスの向上に努めていきたい。

「事務部門」

1. 職場の環境作り

①各課の垣根を越え、多くの職員とのコミュニケーションを取り、各課にまたがる問題等を横断的に解決出来るよう心掛けた。

②仕事に対する充足感を得られるように、用がある時は事務課から出向き、現場第一で業務を遂行した。

2. 事務業務の共有化と標準化

①業務上必要に応じての協力体制の構築に努めた。担当者がいなければ全く分からないといった事が無いようにした。

②請求業務等や利用者様の預り金など、現金や数字を扱う業務が多いが、大きなミスはなく出来た。

③物品を購入する際も、値段の比較などをした上で購入した。消耗品の節約も含め継続していく。

3. 地域貢献に向けた取り組み

- ①高齢者くらしのサポートセンターで、町内に住む独居高齢者への安否確認を実施している。
- ②地域活動の「つどいの和 りんりん」を1年間実施。(増田町老人憩の家にて毎週木曜開催)

「施設管理部門」

1. 施設経費の状況を把握する

- ①水道、各種電気、燃料の使用量及び金額の前年対比とその分析を継続する。
水道、電気代は上昇傾向がある為、節水と節電を継続する。

2. 車両関係

- ①人身に関わる事故・車両事故等はなかった。
- ②数台の施設送迎車両が経年劣化による更新時期を控えているが、長期的な運用を考え車両の更新については前々から計画し、送迎等の業務に支障がないように実施した。

3. 設備の保守

- ①特殊技術や特殊工具使用等の設備、機器を除き、自前で修理出来るものについては実施し、経費削減に繋げた。また、非常灯のバッテリー交換や溶接、特殊浴槽修理、車両リフトの不具合等、修繕に努めた。

4. 環境整備関係

- ①新型コロナウイルス感染予防の為、全館の窓ガラス清掃のみ実施。館内フロアのワックス掛けは次年度以降の課題である。
- ②前年同様に除草剤使用による雑草の抑制、芝生の刈り取り、石拾い等の環境整備をした。
- ④ 除雪について常に早めの作業に努め、安全かつ効率的な除雪を実施。除排雪中のけがや事故はなく、物損も発生しなかった。

< 各種委員会 総括 >

「行事委員会」

活動内容

- ・各種感染症等の流行状況に配慮し、出来る活動を実施した。
前年度に続き施設内での活動に限られたが、縮小や形を変えながらも季節行事などを企画し、実行することができた。コロナ禍の施設生活において、一つでも多く行事を開催出来るよう、感染対策に配慮した室内の行事を模索した一年となった。今年度開催できた企画をもとに来年度も積極的に活動していきたい。
- ・外出行事を4年間実施出来ていない。感染症に十分注意し外出行事を行っていき、社会との関わりや、ご利用者様の気分転換を図っていく。可能な限り1回は開催出来るように計画していきたい。

「給食改善検討委員会」

1. 食事形態に合った食べやすさを考慮し、他職種と連携・検討することができた。
2. 嗜好調査から実態を知り、要望に対応できるように努められた。
3. 行事食等の反省点を細かく話し合い、生かすことができた。

「家庭介護者教室運営委員会」

今年度も新型コロナウイルスの影響により、ご家族を施設に迎えての教室開催は実施できなかった。利用者様・ご家族へ向けて、在宅介護に役立つ情報を掲載したお便りを3回発行している。また、道の駅への配布や“集いの和りんりん”での配布を継続し、地域への情報発信を行っている。

内容については下記の通り。

- 第1回：熱中症について／運動の始め方と効果的なタイミング
- 第2回：生活習慣病について／頻尿や尿漏れについて
- 第3回：おうちで「のどトレ」のどを鍛えて健康長寿に！

通常の面会が再開されるまで教室は開催できず、お便りの発信を継続している。ほぼ計画通りに年3回発行できている。自宅ですぐに取り組める体操や健康維持に役立つ情報を発信した。ご家族から“お便りに載っていた体操に取り組んでいる”といった声が聞こえてきており、好評であった。今後もお便りでの情報提供が継続される見込みだが、面会に来られた方からお便りのテーマを募る等し、内容がマンネリ化しないよう努めていきたい。

「環境・サービス向上委員会」

1. 環境整備について
 - ①各居室の消臭ビーズ交換を定期的実施した。
 - ②下駄箱清掃を実施したが、全職員が行ったとは言いきれない為、実施していない職員への促しをしていく。
2. サービス向上について
 - ①ご家族アンケート
多くは暖かいお言葉を頂戴したが、改善が必要なご意見については適切に改善していく。

②勉強会

資料を自己評価表と一緒に配布し参考にして頂いた。介護課のみで接遇マナーと勉強会を行った。

3. 生産性向上委員会への移行

次年度は生産性向上委員会としての活動を主にしていく。

「褥瘡対策委員会」

1. 褥瘡予防のために以前購入したケア用品の老朽化や劣化が目立ち、効果や機能に問題が出てきていたが適宜補充や代用品の活用で対応した。
2. 日常的に適切な体位交換の実施が出来ていた。
3. 褥瘡計画書に基づいたリスクに対する予防ケアの実施は概ね行えていた。来年度は、各職種に具体的な役割を依頼し、褥瘡発生防止に努めていく。

「感染対策委員会」

1. 定期的に委員会を開催し感染対策の問題や対策の修正、備品の確認を実施した。
クラスター発生に対する、初動や問題点など振り返り、マニュアルを基に当施設の具体的な行動について勉強会を実施した。
今後においても発生時の動き同様に、感染症の持ち込み防止や感染症に関しての職員個々の知識や意識を向上する事が課題である。
2. 定期学習会の開催については業務状況などから集団での開催は叶わず、各課での紙面での開催となった。

「事故発生防止委員会」

1. 実施計画内容については概ね実施出来ている。ヒヤリハットの有効活用や各課との情報共有から個人へのアプローチについて、今後の課題としたい。

「事故発生状況」（前年度比）

転倒：44件（-3） 誤嚥：2件（-6） 誤薬：2件（+1） 皮膚トラブル：19件（+19）

経管トラブル：3件（-7） 異食：0件（±0） その他：3件（-14）

誤薬が前年度より+1件、皮膚トラブルが+19件と増加している。

重大な事故を減少出来るように働きかけ、対応を行っていく。転倒の内、骨折について4件発生している。

職員の不注意によるトラブルを減らす為には常に意識づけをしていかなければならない。慣れにより慢性的なケアにならない様に、今後も委員会等から定期的に働きかけていく。

2. 安全衛生については、各部署の危険箇所の確認や腰痛防止、メンタルヘルスへの取り組みが不足していた。今後は定期的に各部署の職場環境チェックを実施し、検討・改善に努める。
また、学習会等での全体周知も実施する。

「排泄改善委員会」

1. ご利用者全員の排泄機能向上を目標とし、委員会での各課の意見を基に現場への助言を行っていった。各委員では伝えきれない重要な事項に関しては、介護課会議を活用し、各ブロック長に直接伝えていくよう努めた。

2. 在宅復帰者に関しては、委員会内でリハビリ状況やご家族、利用者様本人の意向をこまめに確認する事ができ、在宅復帰に向けた対応の変更をスピーディーに行えた。
3. 定期的な排泄用品の使用状況を把握し、適切な在庫の管理が出来た。今後も各ブロック長の月一回の使用状況報告を徹底し、現状にあった適切な個数を継続していき、コスト削減に繋げていきたい。
4. 今年度も排泄介助のスキル向上を目指した学習会を開催した。
5. 課題として、尿路感染者をリストアップし、予防の一環として1日1回の陰部洗浄実施を進めていく。

「高齢者虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会」

1. 前半はなかなか委員会を開催することが出来ず、身体拘束廃止に向けてのカンファレンスを定期的に行うことが出来なかった。シフト調整をするのが遅れてしまったことが原因と思われる。後半は早めに委員メンバーに声をかけ1カ月ごとに実施することが出来たので、次年度も継続していきたい。
2. 高齢者虐待に関してはアンケートを実施し、自分が気を付けている事と、第三者が気になっている事に差がある事を感じてもらえたのではないかなと思う。内出血などが多く発見されることもあったので、定期的に虐待防止への意識を委員会から発信していきたい。
3. 身体拘束に関しては、解放に向けて少しずつ前進出来た方もいた。全ての解放とまではいかなくとも、短時間でも拘束具を外しストレスのない時間を作れたらと思う。その為にも動作の確認や、日々の視察を通して情報を集め、カンファレンスを行っていきたい。

「防災委員会」

1. 定期的な非常用物品の点検及び整理
備蓄庫及び施設内非常用物品の点検を実施した。
2. 消防設備、機器の把握と使用手順の周知徹底
避難訓練時に消化器及び屋内消火栓を使用するの消化訓練、非常放送設備での館内放送、自動火災通報装置での通報連絡及び物干し棒と毛布等を利用するの簡易タンカの作成訓練を実施した。
3. 全職員の避難訓練の参加により、火災発生時の対応を体得する。
年2回の避難訓練を実施し、できる限り訓練経験のない職員を優先して参加させている。
4. 年間防災計画に基づいた各種点検、訓練の実施
法定の消防設備点検を専門業者に依頼し機器点検及び総合点検を実施した。防災避難訓練を消防署指導の下、日中想定、夜間想定で2回実施した。また、BCP計画（事業継続計画）に基づき、停電時想定での防災訓練を実施した。

「経口摂取委員会」

1. 月に1回委員会開催
2. 前半は委員会参加者が主に管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士で、他メンバーに関しては代理の出席または書面での参加となった。
3. 摂食嚥下障害のある方について話し合い、検討した内容を個々にフロアに伝えていた。
4. 月1回開催のため、現在の状況を振り返ることが出来た。

研修・出張の実施状況

参 加 年 月 日	研 修 内 容	場 所	参 加 者
令和 7 年 5 月 2 2 日	令和 7 年度 横手市栄養士連絡協議会総会 並びに第 1 回研修会	旭ふれあい館	貴俵 恭子
6 月 6 日	令和 7 年度 第 1 回横手市福祉施設栄養士協議会研修会	旭ふれあい館	貴俵 恭子
6 月 1 0 日	介護施設における安全対策担当者養成研修	オンライン	眞田 敦
6 月 1 3 日	令和 7 年度 県南地区介護支援専門員協会 第 1 回研修会	湯沢 ロイヤルホテル	加瀬谷 彩
6 月 1 9 日	介護施設における安全対策担当者研修	オンライン	原 充
7 月 1 2 日	第 1 回 生産性向上セミナー	オンライン	菊地 繁宏
9 月 3 日～ 5 日 1 6 日～ 1 8 日	令和 7 年度 秋田県主任介護支援専門員更新研修	オンライン	佐藤 弥生
1 0 月 1 日～ 3 日	令和 7 年度 介護支援専門員専門研修 更新研修	オンライン	黒坂 義広
1 0 月 1 8 日	令和 7 年度 秋田県介護老人保健施設職場交流研修会	大曲 エンパイアホテル	菊地 浩記 柴田 亜紀 大和谷 菜摘 佐藤 豊 高橋 愛加
1 0 月 3 1 日	南部ブロック研修会	オンライン	高橋 克典
令和 8 年 1 2 月 2 日	令和 7 年度 横手市福祉施設栄養士協議会研修会	旭ふれあい館	貴俵 恭子
3 月 1 1 日	産業保健セミナー メンタルヘルスの基礎	オンライン	高嶋 美奈子

職員学習会の実施状況

【全課合同】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 7年 5月27日	事故事例の報告及び検討、ヒヤリハット事例の共有 再発防止策の検討、今後の周知・教育方法について	41名
令和 7年 7月31日	身体拘束についての基礎知識	書面開催
令和 7年 9月30日	非常災害BCP研修・プライバシー保護 職業倫理・法令順守等	32名
令和 7年 10月19日	防災訓練（停電想定）	31名
令和 7年 11月25日	感染対策（感染症及び食中毒まん延防止）について	39名

【介護課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 7年 4月 2日	白十字排泄用品について、排泄ケアの質・向上に必要な事 排泄ケアにおける介護職員の負担と軽減に向けて	7名
令和 7年 4月 7日 ～ 5月27日	コロナ感染BCP初動対応訓練	40名
令和 7年 4月28日	職業倫理・法令順守、プライバシー保護について	5名
令和 7年 6月30日	介護記録の書き方について	10名
令和 7年 8月27日	誤嚥性肺炎予防について、窒息時の対応について 口腔ケアについて	書面開催
令和 7年 12月19日	認知症への理解	書面開催

【通所リハビリテーション課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 7年 6月25日	スピーチロックについて	5名
令和 7年 8月27日	膀胱留置カテーテルについて	9名
令和 7年 10月29日	送迎中の緊急対応について	8名

【リハビリ課】

開催年月日	研修内容	参加人数
令和 7年 4月28日	リハビリテーションマネジメントについて	9名
令和 7年 8月25日	慢性腎臓病患者・透析患者とサルコペニア	8名
令和 7年 10月27日	心不全患者の運動の注意点	9名

※不参加職員には資料配布

年間行事計画の実施状況

実 施 年 月 日	行 事 名	場 所	具 体 的 目 標	主 な 内 容
令和7年 5月29日 6月27日 7月 4日	散歩行事	施設内	外気に当たり気分転換を図る	園周辺の散歩
令和7年 7月 7日	七夕行事	施設内	季節感を味わう食事を提供	七夕そうめんの提供
令和7年 8月27日	夏祭り行事	施設内	季節感を味わう行事。	感染予防のため中止
令和7年 9月16日	敬老の日	施設内	長寿の表彰 敬老の日お祝い膳	長寿の表彰 敬老の日お祝い膳の提供
令和7年10月1日～ 10月23日	秋の味覚	施設内	季節感を味わう食事の提供	芋の子汁の提供
令和7年12月 9日	かくし芸大会 (入所)	施設内	他利用者との交流を深め、職員による 演劇を楽しんで頂く	職員によるかくし芸の披露
令和7年 12月25日	クリスマス	施設内	クリスマスを彩る食事の提供	ブラウンシチュー ケーキの提供
令和7年 12月26日 12月30日	餅つき大会 おみくじ大会 (入所)	施設内	季節感を味わう行事。餅つき体験 年の瀬を感じて頂く	利用者様と一緒に餅つき おみくじ引き
令和7年12月31日～ 令和8年 1月 1日	年越し～元旦	施設内	年の瀬、新年を祝う食事の提供	年越しそば、おせち料理の 提供
令和8年 2月 2日～ 2月19日	冬の味覚	施設内	季節感を味わう食事の提供	きりたんぽ鍋の提供
令和8年 2月 3日	節分行事	施設内	他利用者との交流を深め楽しんで頂く	感染予防のため中止
令和8年 3月 3日	ひなまつり行事	施設内	季節感を味わう食事を提供	ちらし寿司の提供

※コロナ禍のため外出行事、花火大会駐車場での鑑賞なし。

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察 ・ 慰 問 者 名	備 考
令和 7 年 7 月 2 9 日 ～ 8 月 7 日	湯沢高等学校 (2 年生 1 名)	通所リハビリテーション
令和 7 年 9 月 2 0 日	横手高等学校 (3 年生 1 名)	通所リハビリテーション
令和 7 年 1 0 月 1 日 ～ 1 0 月 6 日	県立衛生看護学院 (学生 7 ～ 1 0 名)	看護実習

防災計画の状況

令和7年 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7年 6月 26日 午後2時10分～2時30分	職員総数 22名 横手消防署南分署員 0名 セフティ 1名 利用者様 3名	通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火活動に使用する設備・器具 の取扱い訓練 屋内消火栓操作法訓練

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7年10月 30日 午後2時10分～2時50分	職員総数 16名 横手消防署南分署員 3名 セフティ 1名 利用者様 5名	通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練 屋内消火栓操作法訓練

防災訓練（停電災害想定訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7年10月19日 午前12時～13時30分	職員総数 31名 日本テクノ 1名 利用者様 97名	停電時訓練 非常用発電機稼働 電気自動車活用

防災対策自主点検

保守点検	年 2回 （3月、9月）
自主点検	月 1回
防災点検	毎日1回

上記の点検等は令和6年度同様、令和8年度も実施整備する。

グループホームひだまりの家 総括

1. 今年度は介護報酬の改定は無かったが、科学的介護推進体制加算の算定を開始した。又、BCP（事業継続計画）の書類整備や職員への教育機会を進めることができた。4月から食事を調理済み冷凍食品に切り替え、職員の調理や入居者の栄養バランスの改善に取り組むことができた。物価の高騰により、消耗品や設備修繕の費用が増えていく状況であり、食費などの利用者負担を検討していくなど対策が必要だと感じる。
2. 2月～3月にかけてインフルエンザB型が施設内で流行した。入居者1名、職員3名が罹患したが、感染者への対応など職員ががんばってくれた為、感染拡大を最小限にする事が出来た。職員からの持ち込みであり、体調管理の必要性を改めて感じるが、感染防止の難しさも感じる。感染症の流行期を把握すると共に、引き続き職員の感染症への理解や対応が進むようにしていきたい。
3. 入居者関係は2名の入居者が退去され、内1名の方は施設での看取りを行い、1名は医療機関へ退去となっている。看取りの対応は、訪問看護や主治医との連携が取れ、比較的スムーズに行えたと思う。又、平時の体調管理も訪問看護の助言を受けながら行う事ができた。一方、新しい入居者が数名入られ、業務の見直しを行いながら対応した。入居申込みが少ない状況が続いており、入居者確保に苦慮する状況は続いている。
4. 職員関係は、退職者2名、異動2名（4月に1名採用、1名異動）であった。急な体調不良などにも職員の協力があり、業務を遂行することができた。入居者本人が納得や満足できるように、職員1人1人が十分な意思疎通が図れ、意向をくみあげられるように環境を整えていきたい。
5. 次年度5月にて当事業所は廃止となるため、入居者の次の行き先の確保については出来ている。負担がかからないよう適切に移行できる段取りを組んでいる。

< 各種委員会 総括 >

「身体拘束廃止委員会」

1. 会議や学習会を通じて身体拘束廃止に向けた意識の共有ができた。
2. 身体拘束に該当するような対応は無かった。

「業務改善・研修委員会」

1. 適宜、業務内容の見直しを行い、分担時間などにムラが無いように努めた。
2. 学習会を開催し実施することはできたが、外部研修などに職員を派遣することが出来なかった。

「感染対策委員会」

1. 施設内での入居者、職員のインフルエンザ感染があった。対応についてマニュアルに沿って行い、感染拡大を最小限にとどめる事ができた。
2. 職員は体調不良の際は遠慮せずにその旨を報告し代替職員も協力し合って対応できた。

「広報・介護機器検討委員会」

1. ひだまり通信を毎月作成し、ご家族に普段様子などを伝えることができた。
2. 介護機器の点検・使用状況の確認を行い、1人1人にあった対応をすることができた。
3. 広報「あがってたんせ」を発行する事が出来なかった。

「環境美化委員会」

1. 環境整備については適宜行い対応する事が出来た。

「事故発生防止委員会」

1. 毎月の会議において入居者様の個別リスクを確認し対応について確認する機会を持つことができた。
2. ヒヤリハット・事故報告書の内容を検討し、個別に対応する事が出来た。

「企画委員会」

1. 地域文化祭へ入居者様と作成した作品を出展することができた。
2. 外出や外泊を含め、入居者様とご家族が交流する機会を持つことが出来なかった。

「食事委員会」

1. 職員会議や勉強会において食中毒防止の啓蒙に努め、トラブルなく経過する事ができた。
2. 嗜好などを確認し、個別の対応をすることができた。

「計画作成担当委員会」

1. 個々の状態や要望を反映したケアプランを立案できた。

「高齢者虐待防止委員会」

1. 会議や学習会を通じて高齢者虐待防止について理解を深める事ができた。
2. 高齢者虐待にあたるような対応は無かった。

年間行事実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標	主な内容
令和7年4月20日 ～4月30日	お花見ドライブ	増田町内 真人公園	入居者様の交流 を図る。 季節を感じる行 事の提供	外出しての観桜 会実施。
令和7年7月16日	屋外での食事	敷地内	入居者様の交流 を図る。 気分転換を図る。	屋外（敷地内） での会食
令和 7年11月 1日 2日	増田町地域文化 祭	増田体育館	地域との関わり を持つ	文化祭の鑑賞
令和 7年12月28日	餅つき	ひだまりの 家	入居者様の交流 を図る。 季節を感じる行 事の提供	餅つきの実施
令和 8年 1月 3日	書き初め	ひだまりの 家	入居者様の交流 を図る。 季節を感じる行 事の提供	書初めの実施
令和 8年 2月 3日	節分	ひだまりの 家	入居者様の交流 を図る。 季節を感じる行 事の提供	節分、豆まきの実 施
令和 8年 3月 3日	ひな祭り	ひだまりの 家	入居者様の交流 を図る。 季節を感じる行 事の提供	飾り付け実施
通年	ドライブ	増田方面 十文字方面 浅舞方面 東成瀬方面	入居者様の交流 を図る。 気分転換を図る。	外出して気分転 換として実施
通年	誕生会	ひだまりの 家	入居者様の交流 を図る。	交流を図った。

『グループホームひだまりの家』

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視察・慰問者名	備考
令和7年度	実績無し。	

防災計画の状況

令和7年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7 年 6 月 26 日 午後1時30分～1時50分	職員総数 8名	消火訓練
	羽後電設 1名	通報連絡訓練
	横手消防局南分署員 0名	避難誘導訓練
	利用者様 9名	

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7 年 10 月 30 日 午後1時30分～1時50分	職員総数 6名	消火訓練
	羽後電設 1名	通報連絡訓練
	横手消防局南分署員 3名	避難誘導訓練
	利用者様 8名	

防災対策自主点検

保守点検	年 1 回 （ 3 月 ）
------	---------------

上記の点検等は令和7年度同様、令和8年度も実施する。

グループホーム ひなたの家 総括

令和7年度の活動は、近隣の感染状況をみながら外出の機会を作りつつ、室内の活動も充実するように努めた。今年度、コロナ感染は発生しなかったが、これまで一年おきに9月に発生しているため次年度も十分に予防対策を行い、発生を防止していきたい。

入居者様関係では緊急搬送後の入院が4件あり、3名は入院のまま退居となられた。その中でも10月から11月下旬にかけて3名の緊急搬送が立て続けにあり、一気に一時3床が空く状況となった。1名の方は復帰されたが、2名の方は入院のまま退居されたため、2床の空きに対して入居者様を募集するものの、入居前日にキャンセルが発生する等、諸事情から満床とするまでかなりの時間を要した。空床の際は、今後も関係機関への情報の発信、連携、情報収集に努めたい。

職員関係では、年末に1名の退職があり、その後その欠員が年度末まで続くこととなった。余裕のない状況が長く続いたが、職員の協力とボランティアの活用等で入居者様へのサービスが大きく低下しないように努めた。

今年度は実地指導があったが大きな指摘事項はなく、適切に運営されているとの評価をいただいた。今後も継続して書類整備と適正な運営に努めていきたい。

次年度からはひだまりの家の事業が廃止となり、ひなたの家が法人内唯一のグループホームとなる。ひだまりの家から受け継いだ様々なサービスについて常にレベルアップを図り、入居者様、ご家族はもとより地域の皆様からも信頼されるグループホームとなるよう努めていきたい。

＜各種委員会総括＞

「事故発生防止委員会」

- ①事故の集計は毎月実施できた。会議でも事故やヒヤリハットを取り上げ、個別に原因や対応策について確認を行った。
- ②ひやりはっとの記録を確認できていたが、発生の記録が少なかった。ヒヤリハットの記録について小さなことでも記録するよう呼びかけを行っていきたい。
今後も会議の場を活用し、対応策の確認、事故予測等を行っていきたい。

「食事委員会」

- ①過剰に切りすぎたり、手を加えすぎたりしているところがあり、状態に応じた食事形態ではない部分もあった。
- ②二杯目の声掛けをし、好みを聞き、工夫して水分不足にならないようにできたと思う。
自分で出来る方には食事作りに参加していただけたが、「一緒に楽しみながら」という点が必ずできてはならず、今後の課題である

「行事委員会」

- ①実施内容をファイルにまとめ申し送りが確実に行っていた。
- ②担当者へ担当行事について早めに周知されていた。
- ③行事内容の周知を早めに行い、買い出しは連絡ノートに記載し、前もって購入できていた。
日時は職員不足により多少の変更はあったが計画の周知を徹底し行っていた。
- ④室内の活動、食事行事について多少の変更はあったが充実して行っていた。
- ⑤外出については冬期以外は充実して行っていた。外食については地域の感染状況を見ながら試験的に行ったが、回数は数回にとどまった。

「計画作成委員会」

- ①入居者様、ご家族のご要望に沿ったプランの作成を行った。
- ②更新カンファレンスでは、参加できない職員からも意見を募り、適切な支援方法となるよう検討し、一人一人あったプランの作成に努めた。地域資源の活用については全員とまでは行かなかったため、継続して取り組んでいきたい。
- ③プランの内容について会議で報告、浸透を図るように努めた。
- ④状態変化に応じたプランの変更は、今年度はなかった。

「広報委員会」

- ①年３回の発行を無事行えた。
- ②おもて面うら面はそれぞれの内容で作成でき、見やすく、わかりやすい紙面作りに努めた。
おもて面のテーマの選定に悩むことがあったが、以前と同じ内容にならないよう視点を変えるなど工夫を行い発行することができた。

「感染委員会」

- ①勉強会を通じて感染症の知識及予防について学習し、その内容について周知徹底を図った。
- ②寒い日はなかなか換気ができなかったが、可能な限り心がけて行うようにしていた。
- ③今年度は持ち込みによる感染症は発生しなかった。

「環境美化委員会」

- ①入居者様ができる作業の一覧表を参考にし、できる範囲で職員と一緒に布団カバーや枕カバーの交換やモップ掛け、掃除機かけを行っていただいた。居室内の整理整頓の呼びかけを行うことができなかったが、各居室担当が自発的に整理整頓してくれていた。
- ②コンセント清掃は、委員会で概ね実施した。大掃除チェックシートを使用し、できる範囲で行ったが、エアコン清掃はすべてを行うことはできなかった。
- ③入居者様全員に植えてもらうことができた。昔野菜や花を育てたことを思い出していただけるきっかけとなった。皆さんの笑顔を引き出すことができた。
- ④猛暑続きで野菜の生育が悪く、観察や収穫を楽しむ機会を作ることができなかった。
- ⑤今年は新しい壁画作品を作ることができなかったが、前に作成した作品を季節に応じて活用、またアレンジを加えて、季節感が出るように飾った。また、書道やちぎり絵、塗り絵の作品を展示し室内が明るい雰囲気となるよう努めた。

「身体拘束廃止委員会」

- ①身体拘束廃止についての勉強会を年二回実施した。その内容について回覧し参加していない職員にも周知した。
- ②入居者様一人ひとりへのサービスについて毎月の会議にて話し合いを行い、きめ細かい介護の実践に努めた。
- ③委員会を三か月に一回開催し、その記録を回覧し周知した。チェックリストを活用し、毎月振り返りを行い、身体拘束の他、言葉や態度での拘束がないように努めた。

「虐待防止委員会」

- ①「不適切ケアチェック表」で個々に毎月振り返りを行っている。チェックが多い項目については、委員会で改善策の検討を行い、その内容を回覧し、周知に努めた。
- ②委員会は年2回「身体拘束廃止委員会」と共催で行うことができた。尊厳のあるケアについて「不適切ケアチェック表」のチェックの結果から点検を行った。年々チェックされている項目が減少してきており、不適切と思われるケアが改善されている傾向にある。

「グループホーム ひなたの家」年間行事の実施状況

実 施 月	行 事 名	場 所	具 体 的 目 標	主な内容
令和7年 4月21日 25日 26日 27日 28日	お花見ドライブ	真人公園 梨木公園	季節感を味わっていただく	外出してのお花見実施
5月22日	花と野菜の苗植え	ひなたの家内	季節感を味わっていただく 入居者様同士の交流を図る	プランター菜園活動実施
6月24日	バーベキュー	ひなたの家車寄せ	好まれるものを食べて満足感を感じていただく 季節感を味わっていただく	B B Qの実施
6月30日 7月2日 3日 4日	あやめまつり見物	浅舞公園	季節感を味わっていただく	外出してのお花見実施
7月7日	七夕行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく	流しそうめん提供
7月19日	土用の丑の日	ひなたの家内	季節のものを味わい満足感を感じていただく	ウナギ料理の提供
8月6日 7日	七夕絵どうろう見物	湯沢市	季節を感じていただき、気分転換を図る	外出しての見学
9月18日	敬老会	ひなたの家内	職員から日頃の感謝を伝え、長寿を祝う	長寿の表彰を実施
9月23日	おはぎ作り	ひなたの家内	食事を通して季節感を味わっていただく	おはぎを一緒に作成
10月13日	芋煮会	ひなたの家内	旬のものを味わい季節感を味わっていただく	いも煮の提供
10月31日 11月1日 2日 4日 6日 11日 17日	紅葉ドライブ	東成瀬方面 真人公園 狙半内方面	季節を感じていただき、気分転換を図る	外出しての見学
12月24日	クリスマス会	ひなたの家内	季節を感じていただき、気分転換を図る	飾り付け、ケーキ提供
12月31日	年越し行事	ひなたの家内	食事を通して季節感を味わっていただく	大晦日料理の提供

令和8年 1月1日 ～3日	正月行事	ひなたの家内	食事やお正月らしい活動を通して季節感を味わっていただく	書初め等の実施
2月 2日	節分行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく	豆まき等の実施
2月12日	犬っこ祭り見物	湯沢市	地域の行事を見物し、季節感を味わっていただく	外出しての見学
2月15日 16日 17日	かまくら見物	横手市内	季節感を味わっていただく	外出しての見学
3月 3日	ひなまつり行事	ひなたの家内	季節感を味わっていただく	ひなまつり飾り付け

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察・慰 問 者 名	備 考
令和 7年10月16日	シルバー人材センター 様	ひなたの家の周囲の 雑草及び落ち葉の除去

防災計画の状況

令和7年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練（日中訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7 年 6 月 2 6 日 1 3 時 5 0 分～1 4 時 5 分	職員総数 6 名 利用者様 7 名 横手消防署南分署員 0 名 セフティ 1 名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練（夜間想定訓練）

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和 7 年 1 0 月 3 0 日 1 3 時 5 0 分～1 4 時 0. 5 分	職員総数 4 名 利用者様 8 名 横手消防署南分署員 3 名 セフティ 1 名	消火訓練 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 1 回 （1 0 月）
------	---------------

上記の点検等は令和7年度同様、令和8年度も実施する。

ショートステイ ラ・ボア・ラクテ 総括

1. ①ご利用者の状態やニーズは年々多様化しているが、ご利用者毎に情報を的確に把握しながら個別性の高いサービス提供が行えるよう努めた。機能訓練については、昨年度より機能訓練指導員がりんごの里と兼務となった為、週1回から2回のリハビリ実施となっている。リハビリ実施出来ない期間を考慮し、個別でのリハビリメニューの作成を依頼し、日々ご自分で取り組んで頂けるようにしている。緊急の受け入れやご家族のレスパイト目的での利用を積極的に受け入れ、ご利用者及びご家族の心身の負担軽減を推進することができた。今後も地域に於けるショートステイの役割が果たせるよう、ご家族・関係機関との連携を密にしながらご利用者の望む生活が送れるように支援したい。
 - ②今年度も感染症の流行状況を考慮し、リーフレット作成、配付を行った。来年度も地域や情勢のニーズを探り、地域に根づいた施設となるよう勤めていく。
 - ③住み慣れた地域や自宅を中心に本人らしい生活が送れるように、ご利用者一人一人の状況に応じて各部署及び関係機関等と連携を深め支援することができた。感染予防対策を行いながら外出行事等を実施し、行事に特色を持たせることで利用者の社会参加や身体機能維持・向上に努めることができた。今後も施設の特色を活かし、サービス提供がより充実するよう努めたい。
 - ④今年度、新型コロナウイルスに利用者が2名罹患したが、クラスターの発生はなかった。感染症発生後は感染対策の見直しと、職員へウイルスの持ち込みを防止するための対策を周知・徹底、加えてガウンテクニックのチェックや発生時の初動訓練を行った。今後も適宜感染対策の見直しや勉強会を行い、ご家族・ご利用者に安心してご利用いただける施設づくりに努めていく。
2. ①目標管理シートの作成は行ったが、その後の中途評価、個人面談をスムーズに行う事が出来なかった。来年度は余裕を持って実施出来るよう計画的に行っていく。
 - ②外部研修への参加を行い、オンライン開催の研修と併せて職員が研鑽を積む機会を設けた。来年度も外部研修には積極的に参加し、得た知識・技術を内部研修の場を設けて伝達して行けるようにしたい。
 - ③技能チェックリストは年1回のみの実施となってしまった。来年度は年2回実施し、本人と役職者が共通認識を持った上で課題に取り組めるような体制を作っていく。
 - ④⑤サービスの質の向上、職場環境の充実を図るため、情報共有を徹底し、職員間の連携を強化して長く勤務できるような職場づくりを行っていく。
3. ①②事前訪問調査、ケアカンファレンス、サービス担当者会議など、ニーズを把握し共有するための機会はあったが、各専門職種での情報共有が不十分であった。次年度は施設内での情報発信・共有を強化するとともに、ご家族やケアマネジャーへの情報伝達、共有を密にして信頼関係の構築に努めたい。また、実施したサービス提供が効果的であったかを評価する体制を構築していく。
 - ③フロア毎に週に2、3回のレクリエーション活動、体操（北国の春体操、下肢体操、口腔体操）に関してはほぼ毎日実施する事が出来た。レクリエーションでは季節の飾り作成等の工作やクイズ、軽運動を行い、ご利用者交流、心身のリフレッシュ、生活意欲の向上に繋げることができた。
 - ④本年度も空調設備点検およびフィルター清掃を計画通り実施し、大きなトラブルなく年間を通じ

て安定稼働を維持することができた。一方、各居室の 24 時間換気扇設備に老朽化が見られることから、次年度以降に整備計画を策定し、順次修繕対応を検討していく必要がある。

4. ①②経年劣化により厨房の冷凍庫・洗浄機の買い替えが必要なものや、物価高騰により介護用品費の増加があったものの、修繕費の大きな支出がなかったことと感染対策の強化で感染対応に使用している消耗品費等の支出を抑えることが出来た。
- ③施設内勉強会においてコスト意識の啓発を実施した。電気使用量については前年比 96.3% (3.7% 削減) となり、開設以来続いていた増加傾向に歯止めをかけることができた。
- 今後も世界情勢や物価高騰が収束する見込みが立たない中、この取り組みを一時的なものとしせず全職員が当事者意識を持って継続的な啓発活動に取り組んでいく。なお、使用量は季節や天候にも左右されるため、ご利用者の生活の質を損なうことなくいかに削減行動を定着させるかが引き続きの課題である。
- ④「コスト意識と介護現場での生産性向上」をテーマに勉強会を開催した。勉強会だけではなく生産性向上委員会を発足させ、電子申請・スマートフォンへの移行など業務効率化を図るために取り組みを行った。今後は職員の更なる意識改革やコスト削減に繋げるために継続した取り組みや勉強会に加え定期的な啓発活動を行っていく。
5. ①②③防災訓練を 6 月・11 月の年 2 回実施した。6 月の訓練は地域消防署の協力のもと夜間想定での訓練を行い、実践的な対応力の向上を図った。また、緊急連絡網の訓練については LINE を活用して実施し、連絡体制の確認を行うとともに、マニュアルの見直しも適宜実施した。
- 一方、BCP（事業継続計画）訓練において発電機の取り扱いがスムーズに行えない場面があり、災害発生時にマニュアルに沿った迅速な行動ができるよう、今後の訓練を通じて全職員への周知・定着を図ることが課題である。

以上

＜各種委員会総括＞

『給食改善検討委員会』

①ご利用者からの意見をもとに嗜好を考慮し、食べづらい食材の把握・メニューの変更や廃止等、献立にできる限り反映できるように、皆の声を集め改善に努めた。

ご利用者の状態が日々変化していくため、厨房職員と情報共有し、個人対応や食形態等より良い食事の提供に努めた。味付けが濃い・薄いとご利用者や職員から声があり、その都度 厨房職員に伝えた。完調品の味付けやメニューのサイクルについて、簡単には改善することができずクックサーブの時よりも苦慮することが多かった。

②カンファレンス時や日頃の生活の中で気になったことを職員間で情報共有し、個人に配慮した食事の提供ができるよう取り組んだ。ご利用者からの直接の声、職員からの状況報告をもとに話し合い、新たな個人対応や形態の変更等、改善に努めた。

食事摂取量が少ないご利用者については職員と相談して対応を考えた。(ハーフ食の朝食の補助食の変更を行った)

ラップの誤食事故を受けて、蓋付きの食器を購入した。

※委託業者の方針が変わり、禁止食について嗜好による禁止食は受けないことや、個人対応について場合によってはプラス料金に変更となり、以前よりは柔軟な対応ができにくくなってきている。鶏肉等の主菜(メイン)が苦手な利用者様は、毎回残しているため栄養状態が心配。体重等様子をみているが、主菜が食べられないのは今後の課題としている。

③四季を考慮した行事食を提供することができた。

3月のケーキバイキングは種類を増やし、久々に行うことができた。

その他行事は状況をみながら各職員で連携し計画を立て実施することができた。

2. ①②改善が必要なメニューについては、委託業者に伝え対策を考えてもらった。

※令和8年4月～、完調品に対する全ての対応策として、月に1～2回クックサーブを取り入れることになった。

次年度も衛生管理を徹底し、安心安全な食事の提供に努めたい。また、厨房の人員体制が変わるため、誤配膳などのミスが起きないように注意を払い、信頼に繋がられる食事作りを厨房職員と連携を取りながら行っていきたい。

嗜好調査や日々の意見等改善点を踏まえながら、新たな取り組みに挑戦し、より良い食事を目指していく。

『家庭介護者教室運営委員会』

コロナやインフルエンザの再流行に伴い、前年度に引き続き各ご家庭へのリーフレット配布という形での活動となった。年2回のリーフレット配布を行う事が出来たが、下期は準備・作成段階で時間を要し年度が替わってから(4月)の発送となってしまった。

今後の感染状況等に応じてリーフレットによる活動を継続し、年2回を目標に作成・郵送していく。感染状況を見ながら、家庭介護者教室の開催も検討していきたい。次年度は、テーマ内容をフロアごと等

にワークシェアリングし、より多くの情報を集めた上で資料の作成を試み、精査し各ご家庭へ介護に於ける参考資料の提供に努める。

『行事委員会』

委員会で行事の相談を行い、委員同士で協力する事が出来た。昨年の課題としていた事は、あまり出来ず行事の準備時間を確保する事が難しかった。又、風邪症状やコロナ等の理由で予定していた行事が出来ない事が多かった。職員の人数も不足していたことも要因の一つであった。個人的には、初の委員長で不安だったが、皆の協力で慣れない事も乗り越えることが出来た。課題としては、今年度は職員の定数を満たす為、外出やドライブなど、昨年よりも多くの利用者様に楽しんで頂ける行事を提供出来るようにしたいと思う。又、制作準備時間を確保すると共に、利用できるものは再利用して労力の軽減を目指していきたい。

『広報委員会』

例年通り 3 ヶ月に 1 回のペースで広報誌を発行した。ご利用者に季節を感じていただける様な行事、外出行事や外部ボランティアの方の慰問など、利用者様が楽しんでいる姿を発信することができた。また、今回は初めて行う行事も多く、長く利用されている方のご家族へ新たな試みをお伝えすることができた。

現状ホームページへの活用が出来ていない状況なので、ホームページへリンクを貼り付け新たにアクセスできる別の発信源の作成を検討し、広報誌だけでなく施設の出来事などを投稿し幅広い方たちへ情報を伝えられるよう努めたい。

『感染対策委員会』

- ①月 1 回委員会を開催し、秋田県内・市内感染状況の共有と、フロア毎に換気などの感染予防対策の実施状況について確認した。昨年度同様、感染委員でケアサポート課職員全員に対してガウンテクニックの確認を行った（1 回/年）。ガウンの着脱について清潔・不潔について曖昧な職員もいたため、来年度も継続して行っていきたい。
- ②今年度施設内でコロナウイルス感染症クラスターの発生はなかった。しかし、職員・ご利用者にコロナ陽性者が発生し、フェーズⅢ対応が 2 回あった。マニュアルに基づき感染対策を行い、拡大なく終息した。その後委員会で振り返りを行った。反省点を踏まえ、今後も改善予定。
- ③感染症集団感染発生時マニュアルを 6.12 月に改訂。今後 5 類移行の現状を踏まえて改訂していく予定。
- ④今年度は「コロナウイルス発生時(フェーズⅢ) 初動訓練」を各フロア 3 名ずつで行い、実際に物品を準備してもらった。参加者の中にはクラスター発生時に準備に関わったことのない職員も半数程いたが、7 割以上が次回発生時ゾーニングの準備ができそうとの回答があった。感染症は急に発生するものなので、どの職員でも出来るように今後も訓練を継続していければと思う。

『褥瘡対策委員会』

月1回委員会を開催し、利用者様の褥瘡危険因子や褥瘡発生状況、褥瘡発生者の治療状況についてなどの情報共有を行った。また、状態にあったベッドマットが使用されているか評価を行った。褥瘡を繰り返す・ADL（日常生活動作）が低下しているご利用者に対してはベッドマットの変更を行い、褥瘡改善することが出来た。またフロア職員の協力もあり、体調の悪化に応じて体位交換を行うことが出来た。複数の除圧マットがあり、ご利用者個々のリスク状態に応じたマットの選択を行えたと思う。

今後もしもご利用者が安楽に過ごせるように利用者様一人一人に適したマットやポジショニング、ケアを実施していきたい。

『身体拘束廃止委員会』

①ご利用者一人一人の安全の確保と尊厳を保持する為、個々に適したセンサーの設置を行い、適正について都度評価をする事ができた。不必要なセンサーを設置していないか、故障や不具合がないか等を日々確認し、また月1回委員会後に確認作業を実施した。

物理的な要因だけでなく、心理的要因にも目を向け、ご利用者の心のケアに力を入れる事ができた。スピーチロックや不適切な声掛けがないか、委員会を中心に観察し、会議内での啓発を積極的に行う事ができた。

②今年度も身体拘束ゼロであった。

緊急時やむを得なく、身体拘束が必要になった場合に備え、身体拘束解除に向けての取り組みなど委員会や勉強会を通して確認を行った。

身体拘束ゼロ、廃止に向け、又それを必要としない介護を行っていく為、ご利用者の状態の把握に努め、情報共有を徹底していく。

③施設内の研修については委員会主催で1回しか勉強会を実施する事が出来なかった。

来年度は年2回必ず実施する。

『高齢者虐待防止委員会』

①前年度同様、虐待の予防、不適切な介護の防止として、委員会主催での勉強会の実施、委員会会議内での職員への啓発、知識の習得に努める事ができた。身体的な部分だけでなく、心理的な部分にも焦点をあてる事ができ、今年度、施設内外での虐待は認められなかった。

介助中にできたと思われる内出血斑、原因を特定する事が難しい内出血斑が多数あった。

虐待と疑われる事がないように原因の把握、適切で安全な介助方法の周知と対応策の徹底を行っていく。虐待の早期発見の為、ご利用者の状態把握、送迎時の観察を行う事を発信していく事ができた。引き続き、観察を行っていく。

②施設内研修については委員会主催で1回しか勉強会を実施する事が出来なかった。

来年度は年2回の施設内研修は確実に実施していく。また、外部の研修にも積極的に参加し理解を深めたい。

『事故発生防止委員会』

1. ①今年度の事故発生件数、及び前年度の事故発生件数については下記の表を参照。事故件数の累計は124件で前年度より11件増加している。事故の発生件数が全体的に増加しているが、中でも皮膚トラブルに関する事故報告が多かった。また、幸い体調不良はなかったが誤薬の事故が多く報告されている。また、転倒・転落の事故は前年度より7件少なくなっているものの、依然として最も多く発生している。

事故の発生場所としては、前年度同様、居室内が一番多く、次いで食堂、トイレとなっている。居室内のリスク把握や環境整備などが柔軟に実施出来ておらず、事故のリスクに対しても敏感に対応出来ていない。危険な行動があればとりあえずセンサー対応にすればいいといった単一的な思考になってしまっている。センサーに関しては使用者が多くなり、自ら自分たちの業務負担を増大させ、自分の首をしめている状況が散見される為、定期的な対応の見直しを図っている。

今後も介護技術を含む統一对応を定着させ、各職員のトラブルに関する意識向上を進めていく。日々の生活の中で、ヒヤリハット、気づき報告の積極的な記入やトラブル対応策に対する定期的な見直しを継続して、意識、観察力向上につなげていく。また、来年度からKYT（危険予知訓練）を定期的に行い、危険に気付く力を鍛え、事故の未然防止に努める。

	転倒 転落	誤薬	皮膚 トラブル	チューブ トラブル	誤嚥	その他	累計
今年度	61件	4件	40件	3件	0件	16件	124件
前年度	68件	2件	23件	0件	0件	20件	113件

②新規採用者には、事故防止のための当施設の取り組みである、ヒヤリハットの運用、気づきの報告書について周知。「事故発生予防と再発防止」については、月々の発生状況資料の配布や委員を中心に再カンファレンスの実施により、各職員の観察力や意識の向上に繋がれたと思う。「緊急時の対応（応急処置など）」については、各階役職者が資料を作成し職員に対して個別に指導している。

2、大きな紛争に発展した事例はなかった。

『安全衛生管理委員会』

委員会を定期開催し、環境整備、労働災害の防止に努めた。

福祉用具の安全点検を継続して実施し、必要な修理、修繕を行った。建物設備についても適宜点検・修繕して労働災害の防止に努めた。

秋田県から配付されたポスターや厚生労働省、秋田県が情報提供するポスターを活用して交通安全感染対策の啓蒙、職員の健康管理強化や、メンタルヘルスケアについての情報発信を行い精神面のケアにも努めた。 マニュアルを見直し、改訂版を作成した。

今後も継続して取り組みを行い労働災害防止に努めていく。

『生産性向上委員会』

令和7年10月に委員会を発足し、施設における業務効率化・職員負担軽減を目的とした活動を開始した。年度途中からの始動となり、2ヶ月に1度の開催ペースであったため、本年度の委員会開催は計3回にとどまった。

委員会では、職員のそれぞれの担当業務における課題の洗い出しや情報共有を中心に行った。記録業務・申し送り・シフト管理など、日常業務の中で非効率が生じやすい場面について委員間で意見を出し合い、課題の共有を進めるところから模索していった。

一方で、開催回数が限られていたこともあり、具体的な改善施策の検討・実行には至らなかった。

令和8年度は、法人全体で取り組む生産性向上推進体制加算の取得に向けた動きと連携しながら、当委員会としても具体的な改善策を検討・実行に移していきたい。職員全体の理解と協力を得ながら、利用者サービスの質を落とすことなく、働きやすい環境づくりにつなげていけるよう取り組んでいく。

研修・出張の実施状況

参 加 年 月 日	研 修 内 容	場 所	参 加 者
令和7年5月27日・28日	社協職員のためのファシリテーション基礎講座	秋田県社会福祉会館	佐藤 要輔
6月13日	ビジネスマナー向上研修	秋田県社会福祉会館	本藤 真喜
6月19日	調理技術研修	秋田県社会福祉会館	斉藤 佳名子
7月12日	生産性向上に向けたセミナー	中央市シルバーエリア	高橋 昇太
7月31日	秋田県感染制御指導者フォローアップ研修	青少年交流センターユースホール	中山 由紀
9月29日	虐待・ハラスメント防止研修	秋田県社会福祉会館	佐藤 要輔
11月11日	Dケアセミナー（おむつの性能とスキンケアを知ればこんな業務改善が出来る）	オンライン	斎藤 豪志
令和8年2月20日	福祉・介護事業所採用力アップセミナー	オンライン	堀井 志穂
3月5日	施設・在宅ケア研修会	秋田厚生医療センター	櫻庭 亜矢子

職員学習会の実施状況

開催年月日	研修内容	参加人数
令和7年 6月20日	食中毒発生予防について	7名
9月12日	個人情報・倫理・法令遵守・コスト意識について	6名
12月24日・26日 令和8年2月5日	コロナ感染症発生時初動訓練	10名
令和8年 3月17日	高齢者虐待防止・身体拘束廃止について	12名
3月27日	看取りについて	9名
3月30日	BCP(事業継続計画)について	14名

年間行事計画の実施状況

実施年月日	行事名	場所	具体的目標	主な内容
令和7年4月9日	桜レクリエーション行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 他利用者との交流を図る	レクリエーション
令和7年4月22日 24日	外出行事（花見）	新屋方面	春の空気に触れ外出を楽しむ んでいただく	花見 散歩
令和7年5月11日	母の日行事	施設各フロア	女性利用者へ感謝を伝える	花贈呈
令和7年5月13日 ～15日	お茶会行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供	抹茶・お茶菓子の提供
令和7年6月13日	開設記念行事	施設各フロア	施設の開設日をお祝い 地域の方と交流を図る	慰問
令和7年6月15日	父の日行事	施設各フロア	男性利用者へ感謝を伝える 他利用者との交流を図る	花贈呈
令和7年6月18日 19日	外出行事（カフェ）	スターバックス秋田駅前店	新しい文化に触れ刺激を受けていただく	飲食 散歩
令和7年7月9日	夏祭り	施設各フロア	他利用者・地域の方との交流を図る 祭りを開催し非日常的な時間を過ごす	催し物 慰問 屋台
令和7年8月3日	竿燈慰問行事	正面玄関	地域の機関と交流を図る	慰問
令和7年8月19日	西馬音内盆踊り行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供	職員による踊り披露
令和7年8月21日	花火行事	正面玄関	季節感を味わう行事の提供	花火の実施
令和7年9月12日	敬老会	施設各フロア	利用者の長寿を祝う 他利用者との交流を図る	長寿の表彰 記念品の贈呈 職員によるダンス披露
令和7年10月31日	ハロウィン行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供 新しい文化に触れ刺激を受けていただく	お菓子の提供(感染 対応期間の為お菓子のみ提供)
令和7年12月25日	クリスマス会	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	レクリエーション ハンドベル演奏会
令和7年12月30日	鏡もち作り行事	施設各フロア	季節感を味わう行事の提供	鏡もちの作成

令和8年1月8日	新年会行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	レクリエーション
令和8年2月3日	節分行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	豆まきの実施
令和8年2月12日	バレンタイン 行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	チョコ系のおやつ の提供
令和8年3月3日	ひな祭り行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る	レクリエーション 甘酒の提供
令和8年3月10日 ～12日	ホワイトデー 行事	施設各フロア	他利用者との交流を図る 季節感を味わう行事の提供	ケーキバイキング の実施

慰問・ボランティア・実習等の状況

視察・慰問年月日	視 察 ・ 慰 問 者 名	備 考
令和7年		
4月21日～23日	ママファミ介護教室 鈴木 慎一郎 様	介護現場実習
5月23日	国立大学法人 秋田大学 柳 みはる 様	リハビリ見学
6月13日	梅若会・唄仲間民謡ボランティア 代表 佐々木 廣美 様 他6名	民謡ボランティア
6月13日	ママファミ介護教室 足利 李花 様・田口 佑子 様	介護現場実習
7月 9日	マケオプウアイ フラスケール 代表 鈴木 美喜子 様 他8名	フラダンス慰問
8月 3日	駅東竿灯会 様	竿灯披露
8月 4日・ 5日	令和高等学校 様 2名	介護現場実習
12月11日	栗田支援学校 様	施設見学

防災計画の状況

令和7年度 年間計画の実施状況

防災避難訓練(夜間想定)

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和7年6月25日 午後2時00分～2時30分	職員総数 14人 利用者様 61人 猿田興業株式会社 1人 城東消防署 3人	消火活動に使用する設備・器具 の取扱い訓練 消火訓練 屋内消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練

防災避難訓練(日中想定)

実 施 日	参 加 者 数	主 な 内 容
令和7年11月13日 午後2時00分～2時30分	職員総数 16人 利用者様 3人 猿田興業株式会社 1人 あきたすてらクリニック 2人	屋内外消火栓の扱い方 通報連絡訓練 避難誘導訓練 消火訓練

防災対策自主点検

保守点検	年 2回 (5月、11月)
自主点検	年 1回
防災点検	毎日1回

上記の点検等は令7年度同様、令和8年度も実施する

りんごの里福寿園居宅介護支援センター総括

1. はじめに

令和 8 年度から介護情報基盤の本格運用が開始されることを踏まえ、当センターでは令和 7 年度を移行準備期間と位置づけ、業務効率化および生産性向上に向けた環境整備を進めた。本報告では、当年度に実施した主な取組と成果について総括する。

2. 介護情報基盤への対応

介護情報基盤の運用開始に伴い、出先でも迅速に介護保険情報を確認できる体制が求められることから、補助金を活用しカードリーダーを 2 台導入した。これにより、従来は市役所窓口へ出向き申請書を提出して情報提供を受けていた手続きが、マイナンバーカードを読み込むことで、必要な介護保険情報を即時にデータとして確認できるようになる。なお、導入時期は保険者により異なるものの、今後の業務効率化に大きく寄与するものと期待される。

3. 生産性向上への取組

居宅介護支援における生産性向上とは、入力作業や移動時間などの事務的負担を軽減し利用者へのアセスメントやモニタリングに十分な時間を確保することである。当センターでは、限られた人員で最大の成果を生み出す体制の構築を目指し、ICT 機器の導入や業務フローの見直しを進めた。これらの取組を継続し、次世代の介護支援専門員へとつながる持続可能な業務体制の確立を図っていく。

4. 管理者の対外的活動

管理者は法人および事業所内職員の協力のもと、以下の対外的業務を滞りなく遂行した。

- ・秋田県介護支援専門員協会 理事としての活動
- ・日本介護支援専門員協会における各種業務
- ・秋田県医師会との連携事業
- ・介護支援専門員テキストの執筆業務

これらの活動は、地域の介護支援体制の向上に寄与するとともに、事業所としての専門性向上にも資するものであった。

5. 組織体制と人材育成

事業所全体が一体となり、互いに補完し合う体制が確立されていることは、当センターの大きな強みである。今後もこの体制を維持しつつ、後進の育成に継続して取り組み、事業の持続性を確保していく。

6. おわりに

令和 7 年度は、介護情報基盤への移行準備を中心に、業務効率化と生産性向上に向けた基盤整備を進めた一年であった。引き続き、地域の利用者に対し質の高い居宅介護支援を提供できるよう、組織としての成長と体制強化に努めていく。

りんごの里くらしのサポートセンター総括

「住まい・生活支援事業」

① 見守り・安否確認について

- ・現在2名の方が利用中。生活支援の一つとして令和8年度も継続していく。

② 住まいについて

- ・問合せ等の件数はありません。

「地域支援活動」

住民主体による活動の「つどいの和 りんりん」への送迎や諸準備など後方支援を継続している。

① つどいの和りんりんへの令和7年度の参加者延べ人数は、236人でした。

② その他の地域へ出向いての活動は、実施実績はありません。

事業別利用者状況表（令和 7 年度）

りんごの里 福寿園	R7. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8. 1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
施設サービス	2,550	2,653	2,742	2,825	2,760	2,649	2,718	2,710	2,810	2,757	2,568	2,844	32,586	2,716	97.5
短期入所	237	231	227	237	266	260	325	259	237	251	205	235	2,970	248	
介護予防短期入所	0	4	8	8	0	0	3	0	0	0	0	0	23	2	
合計	2,787	2,888	2,977	3,070	3,026	2,909	3,046	2,969	3,047	3,008	2,773	3,079	35,579	2,965	
通所リハビリテーション	771	804	776	873	778	792	798	755	783	748	723	761	9,362	780	34.3
予防介護通所リハビリテーション	117	113	115	108	88	107	112	98	106	96	100	103	1,263	105	
合計	888	917	891	981	866	899	910	853	889	844	823	864	10,625	885	

グループホーム ひだまりの家	R7. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8. 1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	242	279	270	270	248	268	266	240	254	279	252	240	3,108	259	8.5

グループホーム ひなたの家	R7. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8. 1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	270	279	264	255	279	270	279	252	226	251	252	279	3,156	263	8.6

ショートステイ ラ・ポア・ラクテ	R7. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8. 1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	1,806	1,890	1,820	1,931	1,903	1,842	1,917	1,834	1,938	1,910	1,746	1,934	22,471	1,873	61.6

りんごの里 福寿園 居宅介護支援センター （介護予防分含む）	R7. 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8. 1月	2月	3月	合計（人）	月平均（人）	平均利用者
	184	185	182	175	176	181	189	188	173	178	175	173	2,159	180	

事業実績報告の付属明細書

1. 役員の他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況

特にありません。

2. その他の重要な事項

特にありません。